

村奉行 杉山半八郎の記録

杉山半八郎は、田原藩の庄屋などを指導し、村のこと、徴税をとりしめる村奉行の役、いわば、村の統治のため一番の要職にあった人物です。その半八郎は延享4年(1747)、今から250年以上前に藩領の池の数、いわれのある場所、目印になる岩などを、各村ごとにまとめた記録を残しています。

目立つ岩は、陸路、水路などの目標になりますし、地名などは、村の境界や位置を把握し、仕事をするうえで欠かせない情報であることから、このような記録を作っていたのでしよう。

●本前村(神戸)

「隠れ沢と呼ばれるところに皿焼穴が一つある。大きさは奥行8・1m、横3m、同高1・5mほど、入口高90cm、横1・8mほどである。今はだんだん埋まっている。昔の皿焼穴ではないかと言われている」

●谷ノ口村(神戸)

「十ヶ村入会山の中に七ツ釜と呼ばれるところがある。皿焼穴のような穴が七ツある」



●皿焼穴(写真は大正時代の百々陶器窯跡)

この記録は、今から800年ほど前に盛んだった陶器の窯跡のことが記されています。神戸校区には窯跡があります。現在には字名として残っていないので、これがどの遺跡にあたるのか分かりません。大久保の字「七ツ釜」という場所にも窯跡があり、この記録にはありませんがこちらは字名として残っています。半八郎は、渥美半島の考古学者のはしり、といったところでしょうか。

さて、次は「金」伝説です。

●大久保村

「光岩は富士尾山にあつて、大きさ0・9m×1・2mほどである。昔この岩の近くから金が出て、それから光岩と言われるようになった。」

●白谷村

「蔵王金沢に金穴と呼ばれる場所がある。そのいわれには二川山から

見つけて掘って見たが、金は出ず掘るのは止めてしまった。その後金は海へ出てしまった。昔からの話である。」

果たして、本当に金は出たのでしょうか？昔から金の伝説は各地にあります。人間にとつて金は特別なものだったからでしょう。

もちろん、現在でも金が採れたという話しは聞きません。(増山)



●金が出たと言われる藤尾山(大久保から望む)

※【入会山】特定の人々が利用権を持つ山

▽田原町博物館 ☎ 22局1720

今月の表紙 COVER STORY

日々、刻々と変化する私たちの生活や環境。あなたは「変化」に対して、どのようなスタンスで暮らしていますか？▼ひとくちに「変化」と言っても、さまざまなものが考えられます。例えば四季のように、あらかじめ予想できるもの。例えば結婚や転職のように、自分の意志によるもの。例えば老いのように、無意識で緩やかなもの…。好むと好まざるに関わらず、こうした「変化」に、私たちは向き合っていくかなければなりません▼誰にでも未知の「変化」に恐れを抱くことがあるでしょう。しかし、川の流れるように、勇気を持って絶えず変わることも必要かもしれません。「変化」をためらい、後で後悔したくないですよ。その「変化」は、もしかしたら大きな「進化」かもしれないのですから▼街の表情も少しずつ移り変わっています。(写真・旧渥美病院跡地に集合住宅が誕生。すでに街の風景の一部になりつつあります。)

【人口と世帯数】

総人口	36,878人
男性	18,830人
女性	18,048人
世帯数	11,538世帯

出生	34人	死亡	36人
転入	82人	転出	76人
増減	4人		

(平成15年2月1日現在・増減は1月中)

【行政面積】 82.86 km²

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)